

番 号	1	区 分	町指定文化財
種 別	有形文化財	所 有 者	個 人
名 称	聖観音像（円空仏）		
指定年月日	昭和41年12月14日		
所 在 地	南木曾町田立（大野正兼）		

概 要

円空は、美濃国竹が鼻（岐阜県羽島市）に生まれた江戸時代初期の僧侶である。生涯を通じて常に諸国遍歴の旅を続け、その足跡は関東・東北から北海道にまで及んでいる。元禄2年（1689年）故国へ帰り、自ら中興した弥勒寺で没した。

円空は、一生に12万体の仏像をつくることを祈願したと伝えられる。現在約5,000体ほど発見されており、今後ともその数は増えていくことと思われる。木曾郡内でも全部で11体の円空仏が発見されているが、うち6体が南木曾町にある。円空仏が注目され始めたのは近年のことで、それまでは放置されたり、忘れさられていたものばかりである。ことに「川向の聖観音像と厨子」は、昭和50年に川向の観音堂の片隅にあったものが発見されたものである。

南木曾町における円空仏の製作年月日は、等覚寺の「弁天祠棟札」によって「弁財天十五童子像」が貞享3年（1686年）8月12日につくられたことがわかっているので、町内の円空仏もほぼこの頃つくられものと思われる。また、沼田には岩戸といって大きな岩窟が伊勢山の中腹にあり、ここに行者が住んでいたと伝えられること、麓の楯守神社にも「十一面観音像」があることから、円空はこの岩戸に籠って造像につとめたことも想像される。

円空仏は、当時まったく形式化した職業仏師の作に比し、一見粗雑で荒々しい感じを受けるが、熱烈な信仰の所産物であるだけに、見るものに深い感動を与える、美術史上でも重要な位置をしめる仏像である。